

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立唐桑幼稚園

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）

所在地 〒988-0535

宮城県気仙沼市唐桑町馬場143-1

E-mail karakuwayo-@city.kesennuma.lg.jp

Website

児童生徒数 男子 6名 女子 11名 合計 17名
児童・生徒の年齢 3歳～5歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。





テーマ「からくわいちばん」－唐桑の素敵なおところをさがそう、あそぼう－

●環境・生物多様性の視点から

(1) 活動名「素敵なお場所、馬場の浜を発見！」～海とふれあう活動～

(2) 時期 5月～7月

(3) 活動内容

月 日	活動の流れ
5月14日	<p>●散歩の途中で「馬場の浜」を発見する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園の近くにある浜「馬場の浜」で、いろいろな形の石を探してみたり、波の動きを観察したり、海草や貝を集めてみる。 ・自分たちの見つけてきた貝殻や海草を並べ、分けし、馬場の浜のことや出来事を振り返る。 ・興味をもって集まってきた異年齢児に今日見つけてきたものを話す。 <p style="text-align: center;">この石は、なんでこんな形なの？</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>
5月15日	<p>●図鑑で調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが見つけたものの種類を、図鑑で調べる。
5月末	<p>●図鑑でわかったものをボードにまとめよう。</p>
6月始め	<p>●表現しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかったこと、感じたことを、絵本をつくって表現したり、身体表現をしたりして表現する。 <p>●完成した絵本をみんなに発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢児に自分たちでつくった絵本を発表する。 ・他の幼稚園の友だちに発表する。
	
	<p>●繰り返し馬場の浜に遊びに行こう。</p>
7月始め～	<p>●昨年度の漁協加工出荷センターでの活動を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が質問したい項目を絵にしてカードにする。

波との追いかけっこ！

7月15日

●漁協加工出荷センター見学・交流
・見学を行う



・カードをもとに、自分たちで質問する。

ウニはどうしてトゲがあるの??

ウニの赤ちゃんはどこからくるの??



ホタテはどうやって動いているんですか?

7月中旬

- 疑問や質問してわかったことのまとめと生き物の製作活動に取り組む。
- できた作品を気仙沼市立馬籠幼稚園の友だちと作品交流する。

(4) 幼児の変容・変化(成果)

- ・浜特有の匂いや貝殻、海藻、いろいろな石、海辺での遊びの発見、そこで働く人とのふれあいなど、身近な地域の自然や人に親しむことで得られる感動体験は、子どもたちの気持ちをウキウキさせ、好奇心や探求心、友だちと思いを共有することの嬉しさを味わわせることにつながった。
- ・単発的な散歩に終わらせるのではなく、子どもたちが気づいたことや発見したことを受け止め、その思いをさらに深めていく環境構成を重ねることで、次の活動や遊びの広がりが見られ、友だちとのかかわりの深まりにつながった。
- ・身近な環境から、自分を取り巻く環境がいかに大事でかけがえのないものであるか、少しずつ、子どもたちなりに感じている姿が見られる。
- ・漁協の方々に質問カードを準備するなど、園児自身で考えさせ、発言させる場面を大事にしたことで、交流が深化した。

(5) 今後の課題

- ・体験して終わりにしないことを大事にしている。園に帰ってからの振り返りを大切にしているが、すぐ行わないと記憶が薄れるので、時間の確保が課題である。
- ・語彙力などを含めた表現力を身につけさせることが課題である。

●伝統文化の視点から

- (1) 活動名「からくわの太鼓をひびかせよう！」～伝統芸能とふれあう活動～
 (2) 時期 7月～10月
 (3) 活動内容

月 日	活動の流れ
7月末	<p>●自由に太鼓にふれあおう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度製作した太鼓と和太鼓を保育室に置いておき、自由に自分でたたいて遊ぶ。
7月27日	<p>●宿うちばやしの方々との交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿うちばやし保存会の方々や中学生、小学生から打ち方を教えてもらって共演を楽しむ。
	 
10月	<p>●手作り太鼓をつくろう。 ●みんなで練習しよう。 ●運動会で発表しよう。</p>
	 
10月末	<p>●気仙沼市市民文化祭で発表する。</p>

(4) 幼児の変容・変化（成果）

- ・宿打ち囃子保存会の皆さんとの交流は2年目となった。家族や兄弟が打ち囃子に参加している子どもにとっては、特に興味をもって取り組むことができた。その子どもたちの意欲に誘われて他児も興味をもち、互いに相乗効果をもたらすことができた。また、太鼓に親しむなかで次第に上手になっていくことが喜びとなり、自信を付けてきた。
- ・大きな和太鼓が2台しかなく、バチを奪い合う姿や「貸して」と言えずに我慢する姿も見られた。しかし、友だちが頑張る姿や教えてあげている姿を感じ合う中で、互いに譲り合ったり、一緒に打ち合ったりする姿が見られるなど、自分のことだけでなく友だちを気づかう気持ちが育ってきた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）